

お元気ですか



新屋敷事務所: JR円行寺口駅前 823-5878
あぞの事務所: 846-2046 県議会 823-9524
北本町事務所: 北本町1丁目13-1上雅ビル1F

あいや! 9月県議会 知事=『デジタル化、移住促進と人口減少対策』強調するが 子育て、介護、労働、業者支援 独自努力やスピード感が...

子ども医療費助成、14年改善なし

9月県議会が開会。代表質問では、子どもの医療費無料化、学校給食の無料化を取り上げました。子ども医療費助成は市町村の努力と財源で高校、中学卒業までと前進してきました。一方で、国や県はどんな努力をしてきたのでしょうか。

県は22年前に、乳児の入院と通院に対して医療費助成をスタート。改善させながら現在は0歳〜6歳までの無料化に対しては県が2分の1の補助を市町村に行っています。

しかし、県の医療費助成には所得制限が残っている事や14年前の改正以降、医療費助成の底上げが全くないなど、結果は、全国的に最低レベルの水準となっています。

県、「財政支援スキーム検討」というが

知事は、人口減少対策として、子育て支援の充実を進める主旨の議案説明を行い「市町村の実情に応じて総合的に使える財政支援を検討」と述べましたが、県の子どもの医療費助成の支援割合を底上げするとは言いません。

県は制度改善のリーダーシップを

昨年、こども家庭庁が設置され「子どもの健全やかな成長と子どものある家庭へ支援を行い、子どもの権利や利益を守る」と、こども家庭庁設置法第3条1項に任務を位置づけました。「こども」とは満18歳の成人までと考えますが、そうであるなら高校生までの医療費無料化を県や国が責任を持つ必要があります。

しかし、バラマキ政策ばかり、永続的な安定になりません。さらに、国は子育て支援の財源について「社会保険化」を狙っています。

これは「料金払ってサービスなし」と指摘される今の介護保険を想像させます。

おたまじゃくし

高知市の東へ、あぜ道に真っ赤な彼岸花、その先には赤旗読者。「よう来てくれたねー」の言葉に、流れる汗も気持ちいい。私を先導してくる女性の声は明るい「瑞枝で一す!」と言うと、どの家の人も笑顔で出てくる。子育てママは「県外から帰って来たけど賃金が低くて嫌になる」と、代々農家を営んできた、おじいさんは「人に頼んで田んぼをやってもらいゆう、農家は赤字よ」と、色んな悩みを打ち明ける。

子どもも、お年寄りも「瑞枝ファン」なのである。このコミュニケーション脳能力の凄さに感服する!

なぜだろう。日課の様に住民と対話、そして子ども食堂のお世話役、100歳体操のお世話にも取り組み、住民たちの様々な暮らしぶり『心』を掴む。足が痛いと言いながら「地域の宝」と呼ばれ歩く背中、見習いたい。住民に寄り添い「苦難軽減」に努める。まさに共産党立党の精神そのものを見ている気がした。10月には参議院の補欠選挙が行われるが、政府は国民の実態をわかっていない。自民党一強に風穴を開けると、元国会議員の広田一さんが立候補を決意した。県民総出! 私も心から応援したい。

県議会・クールビズ後退へ!

どれだけ時代遅れなのでしょう

酷暑でも、なぜ半袖タメなの?

民主主義、環境意識を問う

今議会、議運(議会運営委員会)で議場での服装が議題に。6月議会、ポロシャツを着た、共産党の岡本県議に対し、公明党・西森県議が議事進行を止め「ポロシャツはダメ」と発言。

しかし、議運の申し合わせでは「5月〜10月はクールビズ期間で軽装、ポロシャツは許可される」とあり、公明党や自民党県議の指摘は間違っていると白熱する一幕があった。

9月議会に突然、自民党などが「これからは上着着用。(ポロシャツはダメ)」と提案。

共産党や県民の会はクールビズに逆行し、合意なき強行で、約束にも反すると指摘するが、「また議論すればよい」などと、自民党や公明党は強行。少数意見は排除、これが与党議員のあるべき態度でしょうか。

無料 生活・法律相談会

10月15日 午前10時~12時
新屋敷事務所 皿田幸憲・弁護士
毎月・第3日曜日 開催中!